

「とちぎの星」の収穫適期の検討

【背景】

現在、「とちぎの星」の適期収穫の目安は、「コシヒカリ」と同様に、出穂後 40～46 日、帯緑色率率が 10～3 %、出穂からの積算気温が 1,000～1,100℃とされています。

しかし、「とちぎの星」は「コシヒカリ」と比較して登熟が緩やかに進むため、上記の目安では「とちぎの星」を適切な時期に刈り取ることが難しい場合があります。

そこで本試験では、より適切な収穫時期を明らかにするため、「とちぎの星」の出穂期からの日数、積算気温及び帯緑色率と品質の関係について調査を行いました。

【結果】

令和 6 年度の調査の結果、品質分析機で測定した整粒率は、出穂後 45～55 日に 70%以上となり、出穂後 60 日以降から低下しました。また、乳白粒及び基部未熟粒、腹白未熟粒は、出穂後 60 日以降から増加しました(図 1)。農産物品質検査では、出穂後 67 日まではおおむね 1 等となりましたが、それ以降は 2 等となりました。

以上の結果から、「とちぎの星」の収穫適期は、整粒率が高い出穂後 45～55 日と判断され、「コシヒカリ」と比較して、**登熟期間が 5 日長く、適期の期間が 4 日長くなり**ました。また、「とちぎの星」は「コシヒカリ」より出穂期が 5 日程度遅いことから、**移植時期を遅らせなくても、「コシヒカリ」の収穫晩限よりも 14 日程度遅くまで、品質を低下させずに収穫できる可能性があります**。なお、この時期の見目で判断した帯緑色率は 20～3 %、積算気温は 1,283～1,557℃となりました(図 2)。現在、年次変動について継続して調査しています。

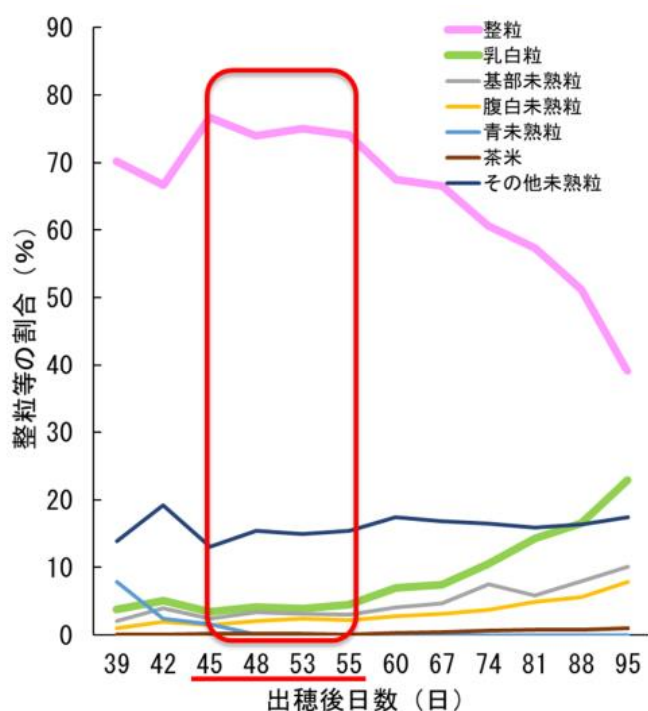


図 1 出穂後日数と品質との関係

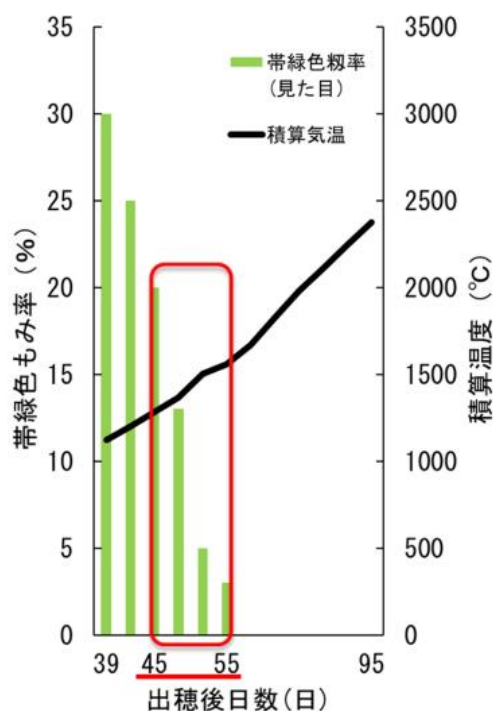


図 2 出穂後日数と積算気温、
帯緑色率の推移

(水稻研究室 菊地 玲央)